

## 1. メディア接触コントロールへの取り組みと実態

図1は取り組みを続けている埼玉県、山口県の3つの小学校の小学校4年生から6年生（N=710）のメディア総接触時間の昨年度との比較の図である。若干、長時間化の傾向にあるが、ケータイ、パソコンなど新たなメディアとの接触時間が原因と考えられる。

しかし、4時間以上の接触は3割程度にとどまっており、我々のこれまでの調査などで、取り組みをしていない一般的な小学生の過半数がメディア接触時間4時間以上という状況に比べると、時間が圧倒的に短く、取り組みの成果が明確に見られる。中でも、0時間があり、1時間未満が今年度14.4%に対して、6時間以上が6.7%というように二極化の傾向が見られる。

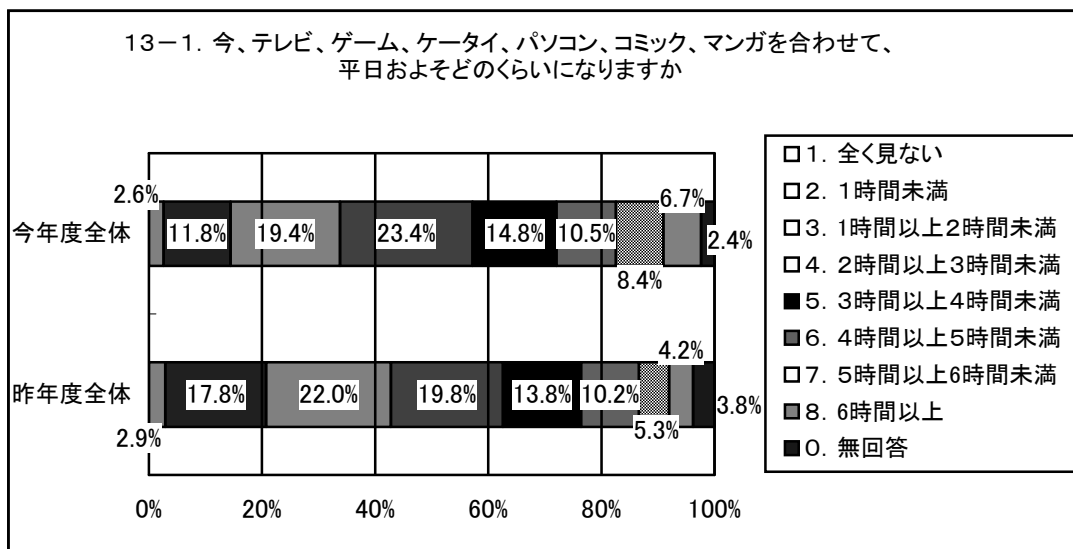


図1. メディア総接触時間

6時間以上と答えた児童は、今年度6.7%、昨年度4.2%と若干増加している。以下を見るとテレビに加えて、ケータイ、パソコンなど新たなメディアへの接触時間が増えているという実態がある。

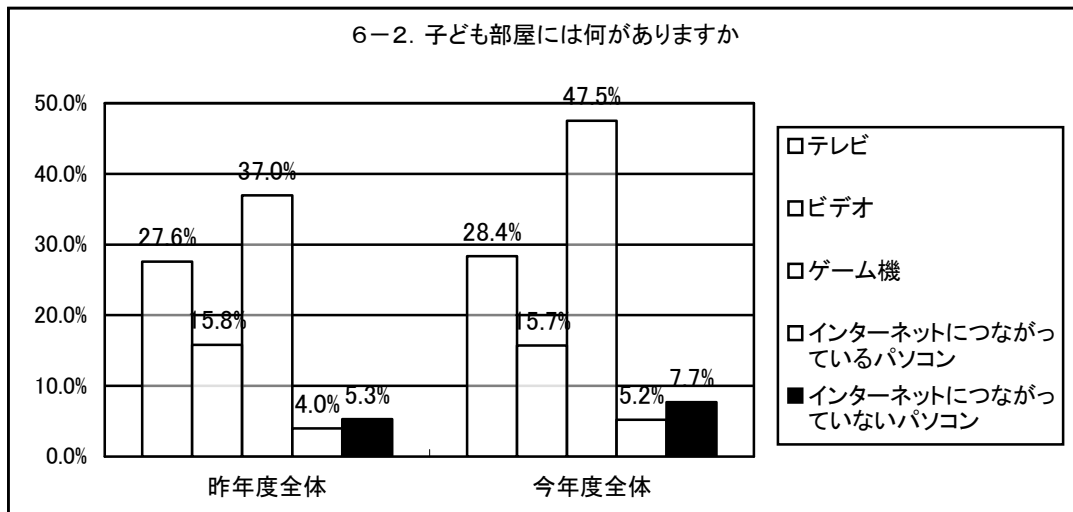


図2. 子ども部屋の各種メディアの有無

「子ども部屋には何がありますか」という問いに対して、「テレビがある」と答えた児童は、昨年度 27.6%、今年度 28.4%、とあまり変わらない。ビデオがあると答えた児童は、昨年度 15.8%、今年度 15.7%、と同様である。ゲーム機があると答えた児童は、昨年度 37.0%、今年度 47.5%、と増加している。インターネットにつながっているパソコンがあると答えた児童は、昨年度 4.0%、今年度 5.2%、インターネットにつながっていないパソコンがあると答えた児童は、昨年度 5.3%、今年度 7.7%と、若干増加している。

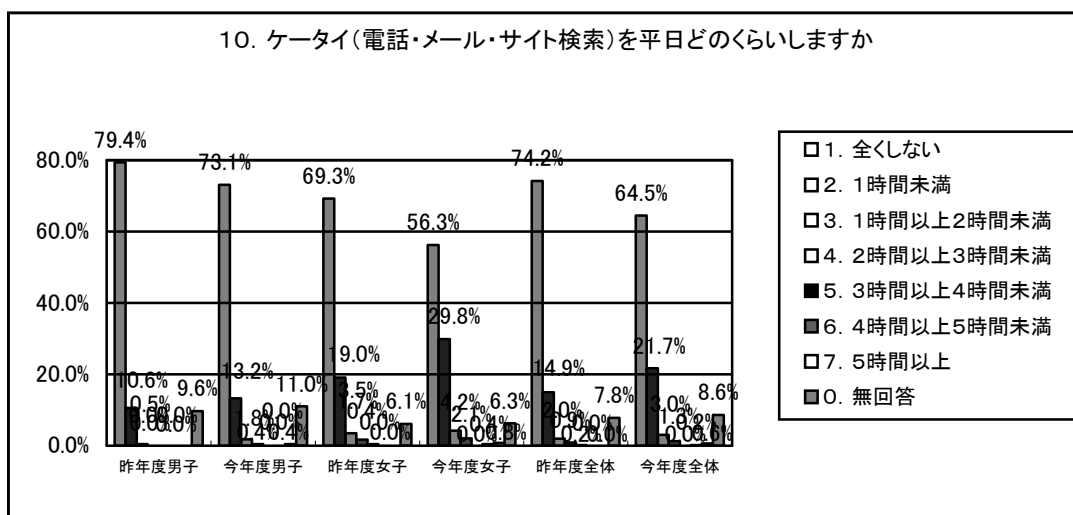


図3. ケータイの利用時間

「ケータイ(電話・メール・サイト検索)を平日どのくらいしますか」という問いに対して「全くしない」と答えた児童は、昨年度男子 79.4%、今年度男子 73.1%、昨年度女子 69.3%、今年度女子 56.3%、共にポイントは減少している。女子の増加が著しい。

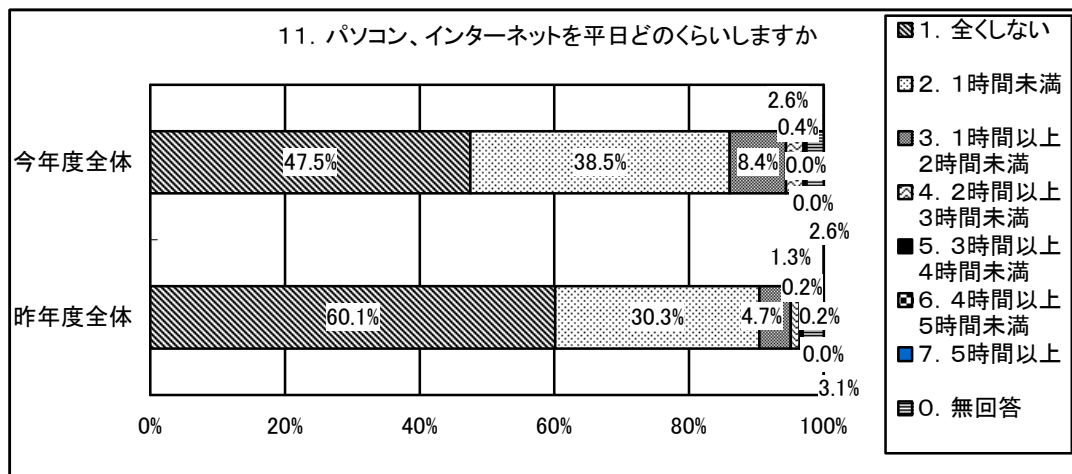


図4. パソコンの利用時間

「パソコン、インターネットを平日どのくらい使いますか」という問いに対して、「全くしない」と答えた児童は、昨年度 60.1%、今年度 47.5%と減少している。

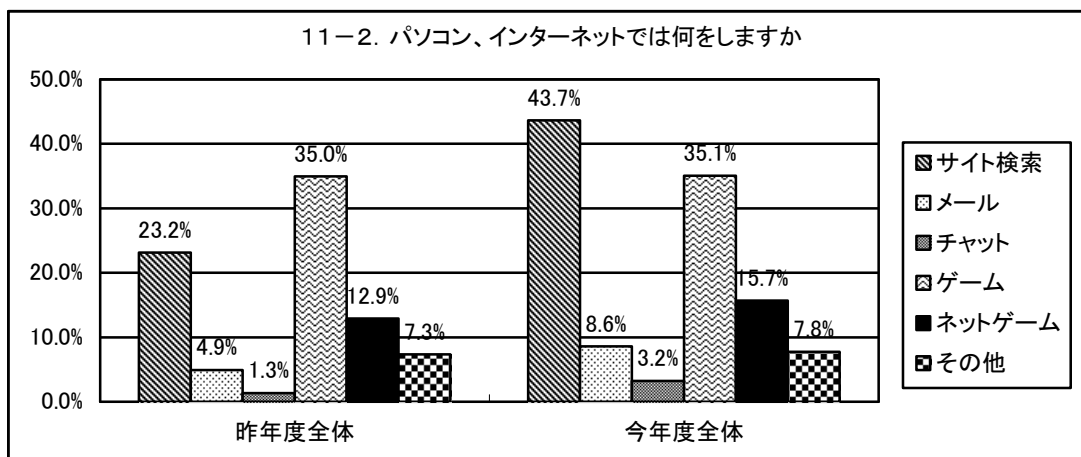


図5. パソコンでの利用内容

「パソコン、インターネットでは何をしますか」という問いに対して「サイト検索」と答えた児童は昨年度 23.2%今年度 43.7%、「メール」と答えた児童は昨年度 4.9%、今年度 8.6%、「チャット」と答えた児童は昨年度 1.3%、今年度 3.2%と増加している。パソコン・ネット等は若干ではあるが着実に増加し子どもに入り込んできている。

## 2. メディア長時間接触の深刻化

メディアと子どもの関係は今回の調査結果から多様化、二極化がみられる。電子映像メディアが着々と子どもの生活に入り込み、特定の子どもの問題の深刻化がみられる。調査結果からうかびあがった特徴的な内容を図6として8つ示す。

### (1) メディア接触時間と人権意識や暴力的傾向との関連

図6-1「友だちがいじめられているのを見ると腹が立ちますか」という質問に対し「はい」と回答した割合はメディア接触時間0の場合 64.3%、6時間以上の場合 33.3%、図6-2「ときどき人やものを叩いたり殴ったりしたくなりますか」では「はい」と回答した割合はメディア接触時間0の場合7.1%、6時間以上の場合30.8%、長時間のメディア接触と人権意識や暴力性との関連性があることを示唆している。

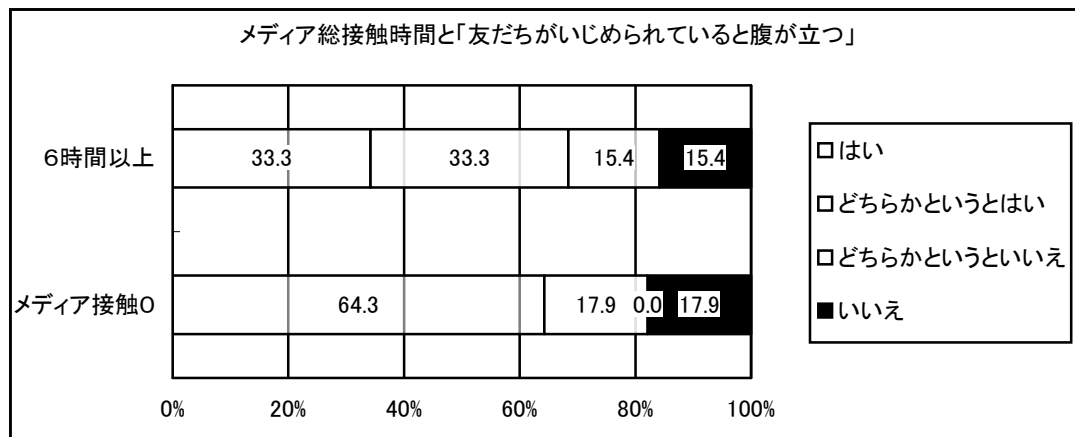


図6-1

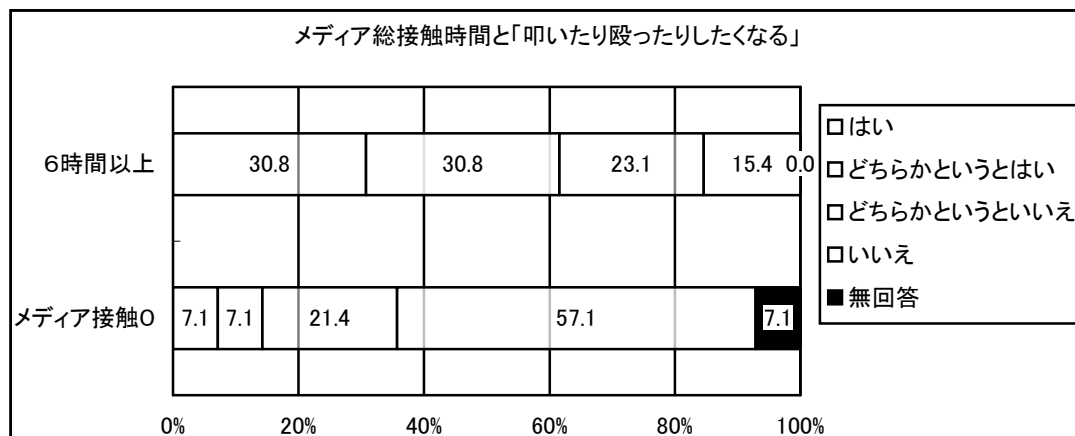


図6-2